

データ番号	212 (資料9)
効用の種類	香りによる生理・心理的効用
見出し	生花の香りのイメージ
出典	(『園学雑64別1』'95 花き) 「花の香りの評価と利用に関する研究(第1報)官能評価用語の選定と多次元尺度法の適用」 筑波大農林学系・半田高、青木恵子／工技院生命研・竹内晴彦／筑波大心理学系・綾部早穂 ／群馬県庁・斉藤幸子
内容	*生花の香りについてアンケート調査を行った結果、花の香りはキンモクセイやスイートピーの香りのように心地良い気分にしてくれるといった「快-不快」、バラの香りのように華やかさを演出するといった「派手な-地味な」の2本のベクトルを主軸に16組の評価尺度で表すことができた。このことからどんな花を設置するかで人々の快適度または注目度を高めることができる。
備考	*花の香りの16組の評価尺度 滑らかな↔ざらざらした、軽い↔重い、明るい↔暗い、澄んだ↔濁った、 素朴な↔華やかな、苦い↔甘い、地味な↔派手な、まろやかな↔刺激的な やわらかい↔かたい、鮮やかな↔くすんだ、不調和な↔調和のとれた、 おいしそう↔まずそう、あっさりした↔しつこい、上品な↔下品な 胸がムカムカする↔気分が落ちつく、快↔不快

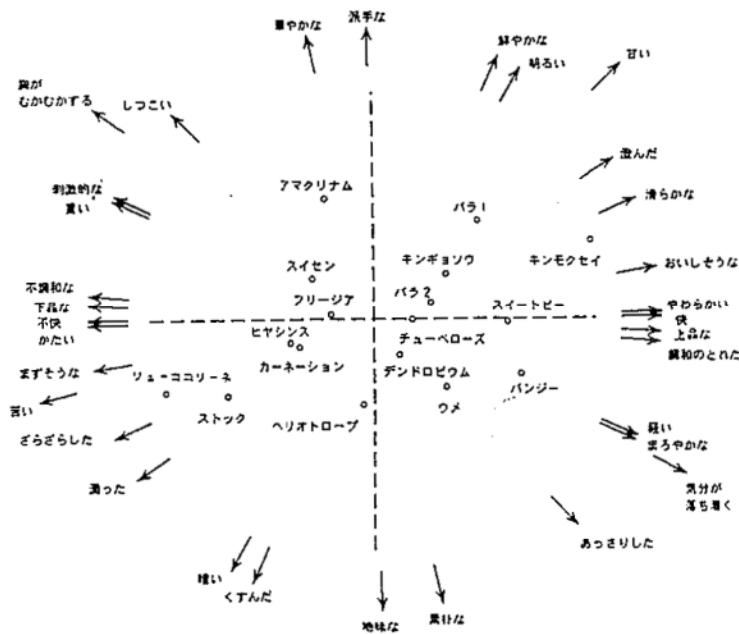
出典：（『園学雑誌64別1.』'95 花き）「花の香りの評価と利用に関する研究（第1報）官能評価用語の選定と多次元尺度法の適用」 筑波大農林学系・半田高、青木恵子／工技院生命研・竹内晴彦、筑波大心理学系・綾部早穂 群馬県庁・斉藤幸子

◆実験：生花の香りの官能評価用語

まず、においと香りに関連する文献から、花の香りを表現するのに用いることができる114語を抽出した。また、第1回のアンケートによって、花の香りで連想する用語を自由に記述させ、第2回目のアンケートで、典型的な香りをもつ16種類の花の名前を提示して、各花から連想する用語を自由に記述させ、新たに106語が抽出された。この計220語から絞り込んだ79語について、さらに、春から秋にかけて、17種類の生花（白色ガーゼでおおった切り花）の香りを旬の時期に被験者に提示したアンケート調査を行った。

この実験の結果、花の香りは、〈快↔不快〉〈派手な↔地味な〉の2本のベクトルを主軸にした座標上に表せることがわかった。

▼32官能評価用語を用いたMDS CALによる2次元解の布置と用語のベクトル表現



▼生花の香りの官能評価に用いた材料と実施月

材料名 '品種名'	実施月
ウメ	3
スイートピー 'ダイヤナ'	3
キンギョソウ 'ライトピンクバタフライ'	3
フリージア 'ラインベルトゴールドナイエロー'	3
リュウコギリネ・イキシオイデス	3
ストック	3
デンドロビウム・スベシオキンギアナム	3
スイセン 'スージー'	4
ヘリオトロープ 'パールベッダー'	4
パンジー 'シラサギ'	4
ヒヤシンス	4
カーネーション 'ドワーフフラグランス'	6
バラ1 (フルティー) 'ハーモニー'	6
バラ2 (ダマスクモダン) 'ババマイアン'	6
チューペローズ	8
キンモクセイ	10
アマクリナム 'ドロシーハンニバル'	10